

令和8年度 シラバス

教 科	国語	科 目	現代の国語	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	高等学校 新訂 現代の国語(第一学習社)		
副教材等	新訂 現代の国語 学習課題集				

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。
学習の方法	・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	- 考えを組み立てる - 効果的に伝える - 情報を集める - 論理の展開を捉える 対比・具体と抽象・事実と意見	- 自分の立場や考えを明確にし、話の構成や展開を理解します。 - 概念の対立や矛盾といった対比を意識しながら読む活動を通して、論理的に考える力を伸ばします。 - ことばの仕組みについて具体と抽象の対応を捉えながら読む活動を通して、論理的に考え、自分の考えを広げる力を伸ばします。 - 目的に沿った調査方法を理解した上で実践し、情報の妥当性や信頼性を吟味し、活用する力を養います。
2 学期	- 情報を活用する - 相手を説得する - 実用文を読む - 主張を把握する - 根拠を示して主張する 主張と根拠・主張と反論・推論	- 主題に関連する複数の情報を自ら選び、他者に説明する活動を通して、自分の考えを深め、論理的に考える力を高めます。 - 実用文や会話文を読み、自分の意見や考えを論述する方法や読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文を書く方法を学びます。 - 一般論と主張を分けて、筆者の主張を読み取り、主張と根拠を明確にししながら批評文を書く活動を通して伝え合う力を高めます。
3 学期	- 主張を吟味する - 主張を比較する - 合意を形成する	- 社会に目を向け、常識とされていることを疑い検証する活動を通して、物事を批判的に捉え、自分の考えを広げたり深めたりします。 - 現在の課題を過去や未来との関係から捉え、解決策を発表し合う活動を通して、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。 - 社会問題について議論する活動を通して、深く共感し豊かに想像する力を伸ばします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	国語	科 目	言語文化	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	高等学校 改訂版 精選 言語文化(第一学習社)		
副教材等	改訂版 精選言語文化 学習課題集				

学習の目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしましょう。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。
学習の方法	- 必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 - 教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 - 言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	- 現代文編 随想、詩 小説(一) - 古文編 古文入門 随筆(一) - 漢文編 漢文入門 故事成語	- 作者の思いや登場人物の行動と心理を読み解くことで、文章の内容や構成、展開を的確に捉えます。 - 古典の話の現代社会に通じる点を話し合う活動を通して、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 - 漢文を訓読するための基礎知識を習得し、言葉の持つ価値への認識を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。 - 近代小説と古典を読み比べる活動を通して、古文におけるものの見方や考え方を捉え、歴史的・文化的背景を読み取ります。
2 学期	- 現代文編 小説(二) 短歌・俳句 - 古文編 歌物語 日記 随筆(二) - 漢文編 史伝 漢詩	- 同じエピソードを記した複数の作品の比べ読みを通して、我が国の言語文化に対する理解を深め、豊かに想像する力を伸ばします。 - 中国の戦国時代の論客を調べる活動や、現代の日本語に取り入れられている唐詩の表現の語源について諸説を比べる活動を通して、言葉の持つ価値への認識を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。 - 現代小説を読み、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
3 学期	- 現代文編 小説(三) - 古文編 和歌・俳諧 軍記物語 - 漢文編 思想 文章	- 古典作品に描かれた当時の人々の価値観を考察する活動を通して、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 - 文章の書かれた当時の時代背景を踏まえて、筆者についての考えをまとめる活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の考えを深めます。 - 近代小説を読み、作品の設定と主題の関係を考察する活動を通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	地理歴史	科 目	歴史総合	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	高等学校 改訂版 歴史総合（第一学習社）		
副教材等	明解歴史総合図説シンフォニア 五訂版(帝国書院)、学習事項の整理と問題 歴史総合ノート(第一学習社)				

学習の目標	1 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を相互的な視野から理解します。 2 現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。
学習の方法	・中学時代には学習していない項目が多数ありますので、授業に集中することが大切です。 ・家庭学習では復習に重点を置きましょう。教科書とともに、授業中に指示された資料集の箇所は、家庭で熟読して理解を深めていくように心掛けていきましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 歴史の扉 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 産業革命と市民革命 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 第4節 アジア諸国の変貌と西アジア 第5節 帝国主義の発展	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象をもとに、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解します。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア諸国と欧米諸国の貿易などをもとに、18世紀のアジアの経済と社会を理解します。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命・産業革命、国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、国民国家の形成を理解します。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などをもとに、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解します。
2 学期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・第一次世界大戦の展開、国際連盟の成立などをもとに、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解します。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開などをもとに、国際協調体制の動揺を理解します。 ・国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりなどをもとに、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解します。 ・冷戦と国際関係、人と資本の移動、食料と人口、エネルギーと地球環境などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けます。
3 学期	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界 現代的な諸課題の形成と展望	・石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化などをもとに、市場経済の変容と課題を理解します。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的な経緯を踏まえて現実的な課題を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を、解決を視野に入れて構想したりすることができ、また、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いている。また、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚が深まっている。
評価 方法	・定期考査 ・パフォーマンス評価 ・課題	・定期考査 ・行動の観察 ・レポート	・出席状況 ・行動の観察 ・ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教科	数 学	科 目	数学Ⅰ	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	新編数学Ⅰ（啓林館）		
副教材等	新課程版 StudyUpノート 数学Ⅰ（数研出版）				

学習の目標	数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解し、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学を活用していく能力を身に付けます。
学習の方法	- 教科書と並行して、問題集「StudyUpノート」で演習を行います。予習・復習を徹底するとともに、疑問点の解消に向けて努力してください。 - 学習課題は必ず行い、提出物は期限までに必ず提出してください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	序章 中学校のふり返り 第1章 数と式 第1節 多項式 第2節 実数	- 中学校での学習内容を通して、高校数学で必要な知識や技能を確認します - 式の展開と因数分解について学習します。 - 数を実数まで拡張する意義を確認し、数の体系について理解を深めます。
2 学期	第1章 数と式 第3節 1次不等式 第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ 第2節 2次関数の最大・最小	- 身近な事象を1次不等式の問題に帰着させ、それを解く方法を学習します。 2次関数のグラフの特徴について理解を深めます。 - グラフを用いて、2次関数の最大値や最小値を求める方法を学習します。
3 学期	第3章 2次関数 第3節 2次関数と方程式・不等式	- グラフを用いて、2次方程式・不等式の解を求める方法を学習します。 2次関数の知識や考え方をを用いて、様々な日常の事象を考察します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	数と式、図形と計量、2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	- 定期考査、小テスト - 発表 - 課題プリント - ノート	- 定期考査、小テスト - 発表 - 課題プリント - ノート	- 行動の観察 - 発表 - 課題プリント - ノート

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教科	理科	科目	科学と人間生活	学年	学科	類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	高等学校 科学と人間生活 新訂版（啓林館）				
副教材等							

学習の目標	1 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術と人間生活とのかかわりについての理解を深め、観察、実験などに関する技能を身に付け、人間生活と関連づけて科学的に探究する力を養います。 2 自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めます。
学習の方法	・授業では、解説をよく聞き、板書等重要なことはノートに整理して記録してください。 ・観察・実験を行う場合は、「何故そうなるのか」を考えながら取り組むことが大切です。 ・課題プリントを用いて復習を行います。期限内に解いて忘れずに提出してください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象 第2部 物質の科学 第2章 衣料と食品 A 衣料の科学	・タンパク質と遺伝子、ヒトの視覚と光について学び、ヒトの生命現象について理解します。 ・血糖濃度の調節、免疫について学び、ヒトの生命現象について理解します。 ・衣料、染料、洗剤について学び、その性質や利用のしかたについて化学の観点から理解します。
2 学期	第2部 物質の科学 第2章 衣料と食品 B 食品の科学 第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用	・食品の主成分について学び、その性質や利用のしかたについて化学の観点から理解します。 ・光の性質とその利用法を理解します。 ・光を中心とした電磁波とその利用について理解します。
3 学期	第4部 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球	・太陽や月の構造や見え方や、これらの身近な天体が引き起こす潮汐や大気の運動について学び、太陽や月が地球の大気や海洋、人間生活におよぼす影響を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究を深めている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとするとともに、科学に対する興味・関心を高めている。
評価 方 法	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察（パフォーマンス評価）、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察（パフォーマンス評価）、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察（パフォーマンス評価）、実験レポート

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	保健体育	科 目	体 育	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	1 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けます。 2 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養います。 3 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養います。
学習の方法	・体づくり運動、球技・武道(選択)、ダンス・陸上競技(選択)を通して、自分で課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習活動を通して、心と体を一体としてとらえ生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育みます。 ・体育理論では、スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について学びます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	・体づくり運動 ・選択(ダンス・陸上競技)	・体ほぐしの運動を通して体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、心と体が互いに影響し変化することを学びます。 ・ダンスでは感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しみや喜びを味わい、表現や踊りの技術を高めて交流や発表ができるようにします。 ・陸上競技では、記録の向上や競走の楽しさや喜びを味わい、技能を高めます。主に障害走と跳躍を行います。
2 学期	・体づくり運動 ・選択2(球技【ソフトボール/バレーボール/テニス】・武道) ・選択3(球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道) ・体育理論	・実生活に生かす運動の計画では、各自のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むことを学びます。 ・球技では、各選択種目で特有の技能の基礎・基本を習得し、仲間と連携する楽しさを味わい、次の学年で高いレベルのゲームができるようになります。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切に、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・スポーツの始まりと変遷、スポーツ文化、オリンピックとパラリンピックの意義について学習します。
3 学期	・陸上競技(長距離走) ・選択3(球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道) ・体育理論	・長距離走では、自分と向き合い努力すること、粘り強く相手と競り合う強い心を養うことを目標とします。また、ペース配分をしたり、ペースの変化に対応したりするなど主体的に取り組むことができるようになります。 ・スポーツが経済に及ぼす効果、スポーツの高潔さとドーピング、スポーツと環境について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	・パフォーマンス評価 ・小テスト	・課題レポート ・小テスト	・出席状況 ・行動の観察

令和8年度 シラバス

教 科	保健体育	科 目	保 健	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	1	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	1 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めます。 2 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身に付けます。
学習の方法	現代社会は、生活習慣病や薬物、心の問題など健康にかかわる問題が少なくありません。また、健康のとらえ方や健康のために望まれることも変化してきました。そこで現代の健康問題や新しい健康のあり方について、課題学習などを取り入れながら主体的に学習します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	I 現代社会と健康 01 健康の考え方となり立ち 02 私たちの健康のすがた 03 生活習慣病の予防と回復 04 がんの原因と予防 05 がんの治療と回復 06 運動と健康 07 食事と健康 08 休養・睡眠と健康	- 健康の考え方や健康を成り立たせている要因について学習します。 - わが国の健康水準の変化とその背景や現在の健康問題について学習します。 - 生活習慣病の種類と要因、一次、二次予防について学習します。 - がんの種類や原因、一次予防と二次予防について学習します。おもな治療法や緩和ケア、がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について学習します。 - 健康と運動の関係や目的に応じた健康的な運動の仕方について学習します。 - 食事と健康の関係や健康的な食事のとり方について学習します。 - 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方や健康により睡眠のとり方について学習します。
2 学期	09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	- 喫煙者や周囲に対する害、喫煙対策について学習します。 - 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、健康問題への対策について学習します。 - 薬物乱用が健康や社会に及ぼす影響や対策について学習します。 - おもな精神疾患の要因と症状、予防について学習します。適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か学習します。 - おもな感染症の潜伏期間や感染力、新興感染症と再興感染症が流行する要因について学習します。 - 性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点についてや、予防と対策について個人と社会に分けて学習します。 - 健康に関する適切な意思決定・行動選択の工夫について考えます。 - ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について学習します。
3 学期	II 安全な社会生活 01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成 03 交通における安全 04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当 06 心肺蘇生法	- 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを学習します。また、安全のために必要な行動や環境整備について学習します。 - 交通事故防止における取り組みと交通環境の整備や、交通事故における3つの責任について学習します。 - 応急手当の意義や傷病者を発見したときに確認・観察するポイントを学習します。 - けがや熱中症の応急手当の手順や方法について学習します。 - 心肺蘇生法の方法と手順について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・定期考査、小テスト ・パフォーマンス評価	・定期考査、小テスト ・レポート ・パフォーマンス評価	・ノート ・出席状況 ・行動の観察

(備考) 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。

令和8年度 シラバス

教 科	芸 術	科 目	音楽 I	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	MOUSA1(教育芸術社)		
副教材等					

学習の目標	1 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組みます。 2 音楽のよさや美しさを感じ取り、自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現します。 3 多様な音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に鑑賞します。
学習の方法	・外国語歌曲の歌唱等、中学校までの音楽の授業より難易度の高い内容です。授業での楽曲や演奏方法に関する説明をよく聞き、理解して演奏してください。 ・楽典と鑑賞の授業では、音楽の基礎的な知識を理解し、丁寧に楽譜を記入したり、音楽を深く味わって聴いたりしてください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 歌唱 校歌、イタリア・ドイツ歌曲 ポピュラー・ソング 2 楽典 楽譜の書き方 3 鑑賞 バロック時代	・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・外国語歌曲の発音を学びながら諸外国の文化を理解し、表現を工夫して歌います。 ・楽譜と音符の書き方について学習します。 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取りながら鑑賞します。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者の特徴を理解して鑑賞します。
2 学期	1 歌唱 ポピュラー・ソング ミュージカル音楽 2 器楽 クラシック・ギター弾き語り 3 創作 カップソング	・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・楽曲が歌われる場面をイメージし、表現を工夫して歌います。 ・楽器の奏法を理解し、弾き語りをします。 ・楽器の音色や奏法の特色を生かし、表現を工夫して演奏します。 ・創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら個性豊かに創作表現を創意工夫する力を身につけます。
3 学期	1 器楽 ヴァイオリン 2 歌唱 合唱、卒業の歌	・ヴァイオリンに触れ、西洋の文化的・歴史的背景や特徴を理解します。 ・ヴァイオリンの基本的奏法を習得し、表現を工夫して演奏します。 ・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・合唱の響きを味わいながら、表現を工夫して歌います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート	・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート	・行動の観察 ・出席状況 ・実技テスト

(備考) ギターとヴァイオリンについては、選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に努めてください。

令和8年度 シラバス

教 科	芸術	科 目	美術 I	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	2	教科書	美術 1（光村図書）		
副教材等					

学習の目標	1 様々な表現活動を通して自らの考えや気持ちを表現する楽しさを味わうとともに、基本的な知識や技術を身に付けます。 2 様々な作品を見たり批評し合うことで、幅広い見方のできる鑑賞能力を伸ばします。
学習の方法	・すべての表現活動において、主にアクリル絵具を使用します。 ・絵画、デザイン、立体造形、鑑賞それぞれの学習項目の中に、美術を学習する上で大切な基礎となる内容が入ってきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 身近なものを描く 2 想像した世界を描く 3 伝えるデザイン 4 ポスターの作成	・手のデッサンを通して、観察力、描写力、線の重ね方や明暗の諧調など、基本的な描法を学びます。 ・連想した言葉を組み合わせ、ありえないものや状況を構成し、表現します。 ・色彩の基礎を学び、効果的な配色やアクリル絵具の特性を学びます。 ・限られた色や形を用いて伝えたいことが伝わるマークを考え、作成します。 ・伝えたい内容が伝わりやすくなる色や構図、コピーを考え、ポスターを制作します。
2 学期	5 暮らしを豊かに彩る文様 6 自己を表す	・抽象作品や身近にある文様を鑑賞し、具象作品とは違う表現の面白さを学びます。 ・スクラッチグラスの制作を通し、ニードルによる彫りの表現と絵の具による色彩の表現の面白さを味わいます。 ・自画像の鑑賞を通して、なぜ自画像を描いたのか、何を描きたかったのかを考え、自身の作品に反映させます。 ・自画像制作を通して観察力を養うとともに、下塗り、上塗り、混色や補色など、絵画表現の基本を学びます。 ・他の生徒の作品を鑑賞することで、表現や発想の違いを理解し、自己理解他者理解を深めます。
3 学期	7 人の姿を捉える 8 記憶に残る映像をつくる	・首降り人形の制作を通して、強調や省略して表現する面白さを学びます。 ・立体作品を制作することで、平面作品とは違う制作方法、鑑賞方法について理解を深めます。 ・映像メディア表現分野の芸術作品を鑑賞することで、新しい芸術表現の世界を味わいます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かに生活や社会を創造していく態度を身に付けている。
評価方法	・行動の観察 ・実技 ・作品 ・小テスト	・行動の観察 ・実技 ・作品 ・レポート	・行動の観察 ・出席状況 ・制作状況 ・作品の提出

（備考） 美術室の道具類は、美術選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に心掛けましょう。

令和8年度 シラバス

教 科	芸 術	科 目	書道Ⅰ	学年 学科 類型	1年商業科
単位数	2	教科書	新編 書道Ⅰ（大修館書店）		
副教材等					

学習の目標	1 様々な書体の古典を勉強し、古典の美に触れ、感性を磨きます。 2 古典を臨書し、様々な書体を書くための技術を身に付けます。 3 日常生活に即した、整った字の書き方を学びます。
学習の方法	・古典の臨書や分析を通して、技術や観察力を学びます。 ・作品の概要や古典の書法を学び、作品への理解を深めます。 ・古典で学習した内容を、創作活動に活用します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 楷書 2 行書	・書道用具や書道史の基本的なことを学習して、書道学習への心構えを身に付けます。 ・書風や用筆法を学習し、作品による筆法の違いを学びます。 ・行書体の字の崩し方を学び、流動する用筆美を味わいます。 ・書風や用筆法を学習し、作品による筆法の違いを学びます。 ・時代によって異なる書風を鑑賞し、臨書に生かします。
2 学期	3 隸書 4 篆刻	・古典の用筆法を学び、簡略美を味わいます。 ・古典の臨書を通して用筆法を学び、基本用筆を身に付けます。 ・篆刻の方法を学び、それぞれの姓名を印材に刻します。 ・古典の臨書で学んだ字形や用筆法を生かして、漢字の書の創作をします。
3 学期	5 仮名 6 創作(漢字仮名交じり)	・仮名の基本用筆を学び、平仮名の書き方などを学びます。 ・平安期の和歌を学習し、色々な散らし書きを学びます。 ・学習内容を生かして、漢字仮名交じりの書を創作します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けている。
評価方法	・作品 ・小テスト	・ワークシート ・作品	・表現活動への取組 ・ワークシート ・提出物

(備考)

令和8年度 シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅠ	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	5	教科書	Revised BLUE MARBLE English CommunicationⅠ		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 3rd Edition(啓林館)、 Vision Quest English Grammar 24 WORKBOOK For Ultimate 3rd (啓林館)、英単語ターゲット1200(旺文社)				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 英語の内容を理解し、自分の感想や考えを英文で表現できる表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのA2以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は予習を前提に行います。予習に取り組んだ上で、授業中の言語活動に参加しましょう。自分の力で予習を行う習慣を身につけましょう。 ・分からないことがあれば辞書を利用して、自分で調べてみるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	Lesson 1 Visitors' Voices: Talking About Japan	・外国人へのインタビューを通して日本の魅力を考えます。 ・文型について理解します。
	Lesson 2 Fashion as a Mirror of the Times	・ファッションの歴史とこれからについて考えます。 ・時制について理解します。
	Lesson 3 Learning to Accept Differences	・あるアニメーション監督からのメッセージを通して、差別がなぜ起きるのかを考えます。 ・助動詞や受動態について理解します。
	Lesson 4 Chaging Behavior in Unique Ways	・人々の行動をよい方向に変えるための仕掛けについて考えます。 ・使役動詞を用いた構文について理解します。
2 学 期	Lesson 5 A Journey to Peace	・ルワンダ大虐殺を生き延びた1人の女性の物語について考えます。 ・知覚動詞を用いた構文や分詞の用法について理解します。
	Lesson 6 What Can We Eat in Space?	・宇宙食の歴史とこれからの時代に求められる宇宙での食料生産について考えます。 ・関係代名詞について理解します。
	Lesson 7 Bio-logging : Discovering Animals' Secrets	・野生動物の秘密に迫る「バイオロギング」について考えます。 ・関係副詞について理解します。
	Lesson 8 What to Do with Too Many Tourists	・「オーバーツーリズム」とは何か、またその解決策を考えます。 ・仮定法について理解します。
3 学 期	Lesson 9 Surviving in the Information Age	・玉石混交の膨大な情報から真実にたどり着くために何をすべきか考えます。 ・これまで学んだ文法事項の復習と確認をします。
	Lesson 10 The Spirit of Zen : Less is More	・「禅」の精神とは何か、そして現代の世界に与えた影響について考えます。 ・これまで学んだ文法事項の復習と確認をします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト ・レポート課題	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト ・レポート課題	・出席状況 ・言語活動への参加状況 ・パフォーマンステスト ・レポート課題

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	ビジネス基礎	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	3	教科書	ビジネス基礎 新訂版（東京法令出版）		
副教材等	ビジネス基礎ワークブック（東京法令出版） 全商商業経済検定 模擬問題集 3級ビジネス基礎（実教出版）				

学習の目標	1 ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付け、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展のため、組織の一員としての役割を果たすことができるようにします。 2 ビジネスに関する課題を発見するとともに、そのよりよい解決に向けて積極的にに関わり、責任を持って取り組む態度を養います。
学習の方法	・この科目は商業の原則必修科目として位置づけられており、基礎的・基本的な内容を学習します。より専門的な学習にチャレンジするためにも、基礎・基本の徹底を心掛けて取り組んでください。 ・全商商業経済検定3級合格を目指し、授業をもとに、問題を解きながら理解力を深めていきます。冬休みの課題等で、模擬問題を解いて実践力を身に付けていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1学期	第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスに対する心構え 第6章 取引とビジネス計算 第3章 経済と流通	・商業を学ぶ重要性和と学び方、ビジネスに関する知識を基盤として、商業を学ぶことやビジネスの意義と課題について、自らの考えを持ち、組織の一員としての役割を果たせるような学習をします。 ・信頼関係の構築、コミュニケーションの基礎、情報の入手と活用する方法を取り扱いながら、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度について学習します。 ・売買取引、代金決済など取引とビジネス計算を取り扱い、売買取引を行うための基礎的な知識と技術について学習します。 ・経済の基本概念などを取り扱い、経済に関する基礎的な知識について学習します。
2学期	第3章 経済と流通 第6章 取引とビジネス計算 第4章 企業活動	・流通の役割などを取り扱い、流通に関する基礎的な知識について学習します。 ・売買取引、代金決済など取引とビジネス計算を取り扱い、売買取引を行うための基礎的な知識と技術について学習します。 ・企業の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなどを取り扱い、企業活動に関する基礎的な知識を学習します。
3学期	第5章 身近な地域のビジネス	・ビジネスに関する国内の身近な地域の抱える課題や動向について取り扱い、地域の特色を活かしたビジネスの振興策を考案し、発表等を行います。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	定期考査、小テスト、課題プリント	定期考査、小テスト、課題プリント、ポートフォリオ評価	行動の観察、パフォーマンス評価、課題プリント

- （備考） 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教科	商業	科目	簿記	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	4	教科書	簿記 新訂版		
副教材等	完全段階式 標準検定簿記問題集 3 級、2 級（東京法令出版）				

学習の目標	1 企業において日常的に発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解します。 2 帳表作成や簿記の基本からビジネス活動を計数的にとらえ、経営判断の視点を養います。
学習の方法	・簿記の基礎・基本をしっかり身に付けることを大切にし、専門的な内容に進むための土台を固めます。 ・全商簿記実務検定 2 級合格を目指し、授業の説明をもとに問題を解きながら理解を深める。冬休みの課題などで模擬問題に取り組み、実践力を高める。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第Ⅰ編 簿記の基本 第Ⅱ編 各種取引の処理 第Ⅲ編 決算（1） 第Ⅳ編 会計帳簿（1）	・簿記に関する基本的な知識や一連の簿記記入の体系を学習します。 ・企業の経営活動によって発生するさまざまな取引について、基本的な記帳方法を学習します。 ・会計期間中に記入された仕訳帳と総勘定元帳から、財務諸表を作成する一連の手続きについて学習します。 ・会計帳簿の種類と役割、企業の方針制度と帳簿全体のしくみについて学習します。また、3 伝票の作成方法も習得します。
2 学期	第Ⅴ編 特殊な取引 第Ⅵ編 決算（2） 第Ⅶ編 本支店会計	・特殊な商品売買と特殊な手形取引について学習します。 ・間接法による減価償却の記帳や有価証券の評価など、より進んだ決算整理について学習します。 ・支店開設にともなう基本的な記帳方法や、本支店間の取引、支店相互間の取引（本店集中計算制度）に関する記帳についての理解や、本店と支店の財務諸表の合併に関する手続きについて学習します。
3 学期	第Ⅷ編 会計ソフトウェア 発展編 その他の債権・債務 発展編 株式会社会計	・取引の記録と財務諸表の作成について、会計ソフトウェアを活用することで効率的に行う方法を学習します。 ・電子記録債権・電子記録債務とクレジット売掛金の記帳について学習します。 ・株式会社の設立・開業・剰余金の配当および処分、株式会社の税務など株式会社特有の記帳について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応している。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	課題プリント、小テスト、ノート、定期考査、パフォーマンス評価	課題プリント、ノート、定期考査、パフォーマンス評価	出席状況、行動の考査、課題プリント、ノート

- （備考） 1 1、2 学期の定期考査は、中間・期末に行う。3 学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	情報処理	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	3	教科書	最新情報処理 新訂版Advanced Computing（実教出版）		
副教材等	全商情報処理検定模擬試験問題集 情報基礎・情報処理、全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2・3級（実教出版）				

学習の目標	1 ビジネスにおける情報の意義を理解し、情報をビジネスに積極的に活用する態度を身に付けます。 2 コンピュータやソフトウェアに関する基礎的な知識を習得し、機器の有効利用ができるようにします。 3 情報通信ネットワークなどを活用したビジネス情報の処理ができるようにします。
学習の方法	・情報処理の基本的な知識や様々なアプリケーションソフトの操作方法をパソコンを活用して学びます。 ・検定資格の取得に必要な知識や上級資格の取得方法について学びます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1章 企業活動と情報処理 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	・情報システムの例やビジネスにおける情報活用の実際、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を学びます。また、情報モラルの基本的な考え方や態度、さらに情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性和その概要、企業に適切な情報処理について学び、技術を身に付けます。 ・コンピュータの基本的な機能と構成、ハードウェアとソフトウェアの種類、機能や活用する基本的な技術を身に付けます。また、情報通信ネットワークの基本やビジネス情報の正確な情報の検索・収集、活用方法、コンピュータを保護するためのセキュリティ管理など情報化社会に対応できる能力と姿勢を身に付けます。
2 学期	3章 情報の集計と分析 4章 ビジネス文書の作成	・ビジネスの処理に必須となる表計算ソフトの操作方法や関数の活用方法、グラフの作り方、表計算ソフトを活用した情報の整理・検索・抽出の技法を学び、実用的な操作を身に付けます。また、目的に応じた適切な計算やビジネスにおける需要予測などの手法についても身に付けます。 ・文書処理ソフトの基本的な操作方法から、図表やグラフの挿入やレイアウト編集の手法まで実習を通して習得します。
3 学期	4章 ビジネス文書の作成 5章 プレゼンテーション	・ビジネスで活用する様々な基本文書に関して書式や役割を学びます。さらに差し込み印刷やはがき宛名印刷等を学び、実用的な操作ができるようにします。 ・プレゼンテーションの意義と必要性について考え、アウトラインの作成や序論・本論・結論のプランニング等を学び、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	課題プリント、実技、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、小テスト、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、実習、課題プリント

- (備考) 1 定期考査は1学期末、2学期中間・期末、学年末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	SS	科 目	地域探究	学年 学科 類型	1年 商業科
単位数	1	教科書	本校で作成したプリントおよび資料		
副教材等	本校で作成したプリントおよび資料				

学習の目標	1 身近な地域が抱える課題について、各科目で学んだ知識を生かし、解決につながる方法について考える力を身に付けていきます。 2 地域や地元の産業と連携した活動を通じて、筋道を立てて考え、適切に表現する力を身に付けていきます。 3 職業人として必要な人間性を高めたり、課題解決に積極的に取り組もうとする態度を身に付けていきます。
学習の方法	・ロールプレイングディスカッション、講演会、データサイエンスの活用等を通じて得た学びを生かし、地域課題の発見や解決方法について、科学的な手法からアプローチします。 ・目標を明確に設定し、活動の記録をまとめ、蓄積していきます。記録をもとに研究の成果と問題点、自己の成長を確認し、課題解決に向けた研究を進めていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 地域課題探究プログラム 「Regional Future Design」 ・南海トラフ地震事前復興デザイン探究 2 ロボット技術講演会 ・地域課題解決ロボットアイデア探究 3 データサイエンス講演会	・東日本大震災における復興の取組や課題について知り、愛媛県南予地域の事前復興に向けたまちづくりについて考えます。ロールプレイングディスカッションを通じて、多角的な視点から地域課題について考えるための基礎的な力を身に付けます。 ・高齢化社会における第一次産業について、変革をもたらすロボット活用について考えます。実習(企業と連携)や講演会を通して、地域課題と最新技術との関連性を学びます。 ・大学と連携し、RESAS(地域経済分析システム)等のオープンデータの活用について基礎的な力を身に付けます。(PPDACサイクル構築)
2 学期	4 地域課題解決データサイエンス探究 5 課題研究基礎 ・ブレ課題研究 6 課題研究 ・講座分け 会計コース 情報コース 地域コース	・大学と連携し、データ活用能力を高める取組を行います。 ・先行研究の調査から、研究テーマや仮説の設定、データの集め方、統計処理、仮説の検証方法やレポートのまとめ方、発表方法等を学びます。 ・ブレ課題の取組を通じて、多角的、科学的思考力やプレゼンテーション能力等、課題研究を行うための基礎的な力を身に付けます。
3 学期	7 講座内発表会 8 振り返り	・研究内容を相互に検証することで、課題研究を深めるための工夫、必要なデータやその示し方について確認します。 ・プレゼンテーションやポスター作成を通じて、聴衆の前で研究の内容を分かりやすく発表する能力を身に付けます。作成、発表の場を多く経験することで、他者と関わり、チームや個々の能力を高めていく方法を学びます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・宇和島市や南予地域に、どのような地域課題があるか理解している(農業・水産業・防災等)。 ・レポートの内容が正確である。	・研究の内容や考察について根拠を示しながら、分かりやすくまとめられている。 ・適切なデータ処理を行った上で、表・グラフ等を作成し効果的に活用できる。	・講演会や研究に対し、事前学習、事後の振り返りを含め意欲的に粘り強く取り組んでいる。 ・学んだことを生かし、仲間と協働しながら改善したり、深まりを持たせたりしようとしている。
評価方法	・小テスト ・ポートフォリオ評価(レポート) ・課題プリント(パフォーマンス評価)	・小テスト ・ポートフォリオ評価(レポート) ・課題プリント、発表会(パフォーマンス評価)	・実験、検証の取組状況 ・ポートフォリオ評価(レポート) ・課題プリント ・発表会(パフォーマンス評価)

(備考) 定期考査は実施しない。